

河川再生に関わる技術・情報の蓄積と国際ネットワーク構築の取り組み

企画グループ 沼田彩友美

1. はじめに

(財)リバーフロント整備センターは、公益活動の一環として「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」及び「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」の活動に取り組んでいます。

ARRN及びJRRNは、2006年3月、メキシコにおいて開催された「第4回世界水フォーラム」において、日本・韓国・中国が中心となって開催された分科会での提言を契機として、設立されたものです。

2. ARRN及びJRRNとは

ARRNは、参加各国・地域内のローカルネットワークであるRRN(River Restoration Network:河川・流域再生ネットワーク)メンバー、及びローカルネットワークを形成していないNon-RRN(個別組織会員)メンバーで構成されています。2010年5月現在、JRRN(日本)・KRRN(韓国)・CRRN(中国)の3RRN組織、及びNon-RRNメンバーとしてタイ国天然資源環境省水資源局とパキスタン国連邦洪水委員会の2組織が参加しています。

- ① アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験などを、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築する。
 - ② アジアモンスーン地域で利用できる『河川再生ガイドライン』を構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図る。

図-1 ARRNの目的

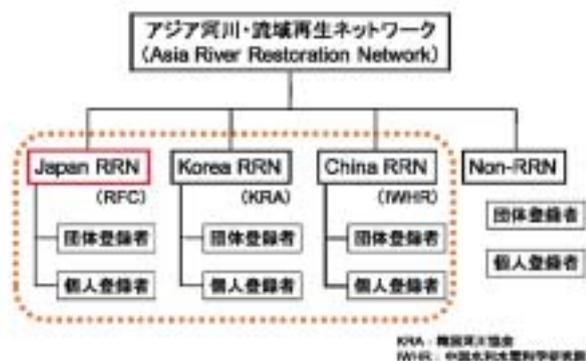


図-2 ARRNの組織構造

このうち、JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク)はARRNの日本支援組織として2006年11月に設立しました。現在、約430名の個人会員及び18の団体会員(2010年4月末現在)で構成されています。

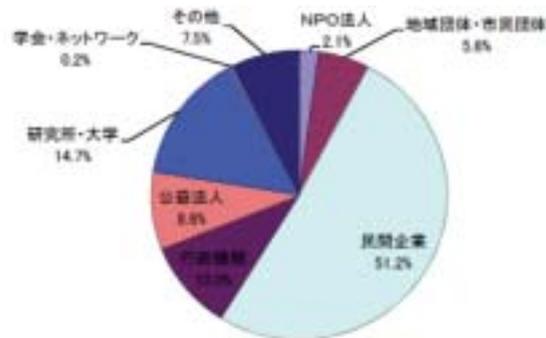


図-3 JRRN個人会員の構成

当センターは、JRRN事務局として、河川再生に関する情報共有のためのウェブサイト運営や会員間交流を目的としたイベント開催など、以下の二つを主な目的として活動しています。

- ① 国内外の河川環境再生に関わる技術・事例・経験・活動・人材などを交換・共有することを通じ、日本国内の各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与する。
- ② 日本の河川環境再生の知見をアジアに向け発信し、同時にアジアや欧米諸国の応用可能な取組みを日本国内に還元する。

3. ARRN及びJRRNの活動

ARRN及びJRRNでは、先に述べた目的を達成するため、主に以下のような活動を行っています。

(1) 情報発信・普及

JRRNでは月に1回の頻度でニューズレターを配信しており、また河川再生に関わるニュースを選択し、週に2回のニュースメールとして配信しています。

また、2008年7月より、英語によるARRNニューズレターを半年に1回の頻度で配信しており、世界の河川再生に携わる方々へ、記事をご紹介します。

(2) 国際フォーラム・ミニ講座の開催

河川再生に関わる技術・事例等を交換共有し、技術や知識の向上させることを目的として、国際フォー

ーラムやミニ講座を開催しています。

平成21年度の開催内容は以下の通りです。

- 第6回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（韓国・2009.9）
- 第3回 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」（東京・2009.5）
- 第4回 河川環境ミニ講座「川づくりと住民参加の目的、河川環境と治水、防災の接点」（東京・2010.2）

(3) 広報活動及びパートナーシップ構築

ARRNの活動を広く紹介し、会員の増加を図ることを目的として、河川再生に関する国際会議や学術会議への参加、また関連組織との意見交換を通じARRNのPR活動を実施しています。

また、海外諸国からの視察団を支援し、情報交換を行うとともにパートナーシップ構築に努めています。

(4) 河川・流域再生事例の蓄積

ARRNは、規範となるようなアジアにおける優れた河川・水辺の再生事例を、各国・地域で共有する仕組みづくりを活動の柱の一つとしています。

現在JRRNでは日本国内の約200の再生事例を収集整理し、ウェブサイトを通じて公開しました。



図-4 事例の掲載例

(5) 河川・流域再生に関するガイドライン構築

ARRNでは「アジアに適応した河川環境再生の手引きver.1」（日本語版及び英語版）を2009年3月に発行しました。本手引きは、今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを念頭に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。



図-5 事例の掲載例

4. 今後の展開

ARRN及びJRRNの設立から3年が経ち、少しずつですが、当ネットワークの活動が広がっているのを感じます。私たちは、これらの活動が日本を含むアジアの水辺空間の再生に寄与し、その結果として水辺の価値が社会に認識され、人々と水辺が結びつき、水辺を通じ心が豊かになる社会の実現を目指しています。

この達成のために、JRRNをはじめとする各国内ネットワーク及びそれら国内ネットワークの集合体であるARRNを段階的に発展させていくことが必要となります。この発展プロセスについては、設立から今年で10周年を迎えたヨーロッパ河川再生センター（ECRR）の経験等も参考にしながら、アジアに相応しいネットワーク構築を目指していきたいと考えています。

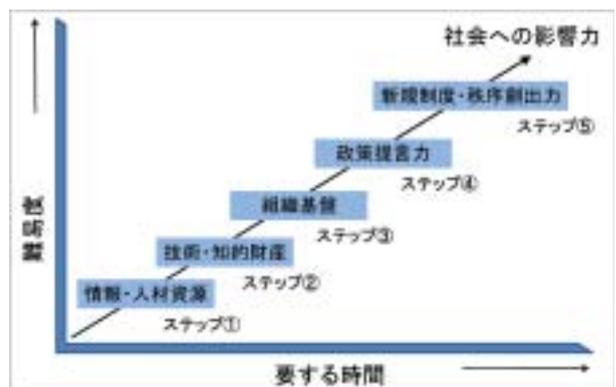


図-6 ネットワーク発展のイメージ

JRRNでは、会員を募集しています。（無料）
 会員登録頂きますと、週二回のニュースメール配信など特典があります。詳細はJRRNホームページ内の会員登録ページをご覧ください。
 JRRNホームページ：<http://www.arr.net/jp/>